

子ども施策に関する意見書

石川県子ども政策審議会

平成21年1月

県では、いしかわ子ども総合条例に基づき、出生から乳幼児、青少年、若者そして親に至るまで、子どもの育成に関する一貫した総合的な施策を推進するとともに、いしかわエンゼルプラン2005に盛り込まれた様々な具体的施策を着実に実施してきており、子ども施策に対する取組みは評価できるものである。

今後とも「かつて子どもに当たり前のように向けられていた多くの人の手を社会全体の努力によって取り戻し、子どもを通じた新たな社会のつながりを構築していくこと」を基本的視点とし、次の事項に重点を置いた取組みを積極的に進めていくべきである。

昨年提出した意見書とあわせて、この意見書が県の今後の少子化対策に反映され、更なる施策の推進につながることを期待する。

1 ワークライフバランスのより一層の推進

- (1) 県では、これまでいしかわ子ども総合条例で、ワークライフバランスの拠り所となる一般事業主行動計画の策定を義務づける企業の範囲を、次世代育成支援対策推進法を上回る基準とするなど国に先んじた取組みを行い、現在、県内の従業員100人以上のほぼ全ての企業において行動計画が策定されるなど、一定の成果もあがっている。
- (2) 今般、次世代育成支援対策推進法が改正され、行動計画の策定が義務化される企業の対象が拡大されたところであるが、今後とも、県独自に行動計画策定企業の更なる裾野の拡大と、計画の内容の一層の充実を図るなど、ワークライフバランスの実現に向けた取組みを、更に深化させていくべきである。

2 地域の子育て力のより一層の向上

- (1) 県では、都市化や核家族化などにより地域の絆が薄れ子育て家庭が孤立化するなど、地域の子育て力が低下している現状を踏まえ、現在、保育所が地域の子育て支援の拠点施設としての機能を担うマイ保育園登録事業や、企業が子育て家庭を支援するプレミアム・パスポート事業に鋭意取り組んでいる。

今後とも、こうした取組みについては、更なる普及と充実に努めていくべきである。

- (2) 更に、保育所や企業による子育て支援に加え、地域住民による子育てに対する応援の輪を一層広げ、社会全体で子育てを支援していく環境づくりに向けた取組みを推進していくべきである。
- (3) また、乳幼児期に、子どもと親がともに様々な体験を重ねていくことは、子どもを成長させると同時に、親の子育て力を向上させることから、子ども同士の触れあいや親同士の子育ての学び合いなどを提供する機会を一層充実するべきである。

3 食育の推進

未来を担う子どもたちが、生涯にわたり健全な心身と豊かな人間性を育てていくために、あらゆる機会を通じて子どもたちの食育に取り組むことが重要であることから、今後とも「いしかわ食育推進計画」に基づき、食育の推進に積極的に取り組んでいくべきである。

4 青少年の健やかな成長を支援

- (1) 近年、携帯電話やインターネットの普及が急速に進展し、膨大な情報に、誰もが容易に接することができる環境にある。
これらの情報には、有用なものが多いことはいうまでもないが、一方で、青少年の人格形成に悪影響を及ぼす恐れのある情報や犯罪に巻き込まれる危険性のある情報も含まれている。
このため、青少年が携帯電話等を通じ有害情報に触れることにより、非行や犯罪被害に遭う事例も多く見受けられることから、青少年の携帯電話やインターネットの適切な利用に関する取組みの更なる強化が必要である。
- (2) 青少年が豊かな人間性を育み、社会で生きる力と創造力を身につけていくうえで、地域社会の中で様々な大人や異年齢の友人と交流しながら、社会体験や自然体験を豊富に積み重ね、新しい発

見による感動や物事を成し遂げる感動を体験することは、大変有意義である。

このため、本県の恵まれた自然環境や体験活動をサポートするボランティアなどを積極的に活用し、青少年が様々な体験をすることのできる機会を更に充実していくべきである。

- (3) 県では、ひきこもりや小児うつ、摂食障害などの子どもの心の問題について、医療・教育・福祉・保健が連携した取組みを進めているが、専門医や相談者などの人材育成を促進するとともに、より身近な地域での支援体制を整備し、相談窓口等の情報を周知すべきである。

5 いしかわエンゼルプラン2005の見直しに向けて

現行の「いしかわエンゼルプラン2005」については、その計画期間が来年度末に終了する。

このため県では、来年度、プランを見直しすることになっているが、これまでの各種取組みについて、子どもや保護者また子育て支援に携わる者といった多様な視点に立った評価を踏まえた見直しを行うとともに、この意見書に盛り込まれている項目について、より一層の充実に向けた検討を行うべきである。

石川県子ども政策審議会における審議経過

開催年月日		議 題
第1回	20年 6月 6日	いしかわエンゼルプラン2005に係る具体的施策の取組状況について
第2回	20年 8月29日	公聴会（県民の意見発表・委員との意見交換）
第3回	20年12月24日	子ども施策に関する意見書の作成に向けた意見交換
第4回	21年 1月27日	子ども施策に関する意見書（案）について

石川県子ども政策審議会委員名簿

氏 名		役 職 名
会長	赤 池 嘉 久	石川県青少年育成推進指導員連絡会長
	浅 野 悦 子	石川県家庭教育相談員
	植 村 まゆみ	ジョブカフェ石川エグゼクティブ・アドバイザー
	雄 谷 助 成	石川県知的障害者福祉協会顧問
	金 川 克 子	石川県立看護大学参与
	香 村 幸 作	石川県少年団体協議会長
	杉 本 一 省	石川県児童養護協議会長
	高 木 眞理子	子ども夢フォーラム代表
	滝 井 悦 子	石川県婦人団体協議会副会長
	田 邊 俊 治	金沢大学人間社会研究域学校教育系教授
	戸 田 正 登	石川県小中学校長会副会長
	鳥 居 方 策	桜ヶ丘病院常勤顧問
	西 田 泰 明	石川県社会福祉協議会保育部会長
	西 村 真実子	石川県立看護大学教授
	野 口 強	北國新聞社論説委員
	福 島 恵 子	みらい子育てネット石川県地域活動連絡協議会副会長
	増 井 章 一	石川県保護司会連合会長
	矢 野 俊 博	石川県立大学教授兼学生部長
山 下 一 夫	石川県高等学校長協会会長	
山 本 多津子	石川県民生委員児童委員協議会連合会理事	

（平成21年1月30日現在、50音順・敬称略）